



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

3月号—No.287

2019.2.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【ピーコックブルー】美しい羽をもつ孔雀の首周りのような冴えた青緑色。

孔雀の羽のような青緑色はピーコックと呼ばれていたが、後により緑味の強いピーコックグリーンという色名が生まれたことから、青色に近い方をピーコックブルー(日本名:孔雀青)と呼ぶようになった。孔雀は飛鳥時代には日本に伝わったとされるが、庶民が親しめるようになったのは江戸時代。珍しい孔雀を見ながらお茶を飲む孔雀茶屋や花鳥茶屋が繁盛した。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式
平成29・30年度「市町村立美術館活性化事業」報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ富士見セッション開催のお知らせ / 「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」公開プレゼンテーション開催のお知らせ / 「第19回地域伝統芸能まつり」テレビ放映のご案内

今月の情報..... 5

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.44..... 10

「若年層の文化行動」③ クラシックを上げていくためには

今月のレポート..... 12

福島県猪苗代町 はじまりの美術館
第2回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん2018」

平成30年度
地域創造大賞
(総務大臣賞)
表彰式

平成29・30年度
市町村立美術館
活性化事業

●平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式



左:石田真敏総務大臣による受賞施設への表彰状と記念楯の授与/右:石田真敏総務大臣と受賞した6施設の関係者との記念撮影

平成30年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の表彰式が1月18日、東京・グランドアーク半蔵門で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに110施設が表彰され、その活動は広く全国に紹介されています。15回目となる今年度は全国から6施設の受賞が決定し、石田真敏総務大臣ご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である一般財団法人地域創造の板倉敏和理事長の挨拶に続き、受賞施設の多彩な取り組みが映像で紹介されました。石田総務大臣から表彰状・楯の授与に続き、「(受賞施設が行う)地域住民と連携した文化・芸術活動の取り組みは、地域力の強化に繋がるものであり、人々が地域で支え合う持続的な社会の構築に大きく貢献していただいていると考えています。…今後とも、全国の公立文化施設のモデルとして、地域の暮らしをより心豊かなものにする文化・芸術の振興にご尽力賜りますようお願い申し上げます」とのエールが送られました。

受賞施設を代表し、中心市街地の元デパートをコンバージョンした「アーツ前橋」で受賞した前橋市の山本龍市長より、「アーツ前橋は、昨年10月に開館5周年を迎えたばかりの新しい施設です。『創造的であること』、『みんなで

共有すること』、『対話的であること』をコンセプトに地元のアーティストや中心商店街など、多くの市民と関わりながら、展覧会やイベントなどの活動に取り組んでいます。…このように公立の芸術文化施設が意欲的にまちと繋がりを、アートをキーワードとして人と人を繋げ、創造力を育んでいくことは、『新しい価値の創造都市・前橋』の実現に大きな役割を果たすものと信じています。私たち受賞施設一同はこの栄誉を誇りとして、今後とも文化・芸術による地域振興やまちづくりをさらに推進してまいります」という決意を込めた謝辞をいただきました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、それらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

●平成30年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- アーツ前橋 [群馬県前橋市]
- 長岡リリックホール [新潟県長岡市]
- 茅野市民館 [長野県茅野市]
- 穂の国とよはし芸術劇場(PLAT) [愛知県豊橋市]
- 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷 [徳島県]
- 高松市美術館 [香川県高松市]

●地域創造大賞審査委員会

- 委員長
田村孝子(文化ジャーナリスト、公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
- 委員長代理
吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事(社会研究部 芸術文化プロジェクト室長兼務))
- 委員
板倉敏和(一般財団法人地域創造 理事長)
- 熊倉純子(東京芸術大学大学院国際芸術創造研究科長 教授)
- 小林真理(東京芸術大学大学院人文社会系研究科 教授)
- 坪池栄子(株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)
- 仲道都代(ピアニスト)
- 柳沢秀行(公益財団法人大原美術館 学芸課長)

*五十音順

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●平成29・30年度「市町村立美術館活性化事業」報告



左：「ロビーコンサート」(瀬戸市美術館)／中央：「スペシャルギャラリートーク」(釧路市立美術館)／右：「江戸写し絵」と絵画でめぐる日本の風景 ちょっと不思議なはけ美の夕べ」(小金井市立はけの森美術館)

平成29・30年度市町村立美術館活性化事業「小杉放菴記念日光美術館所蔵 絵画で国立公園めぐりー巨匠が描いた日本の自然」展が、はつかいち美術ギャラリー、瀬戸市美術館、小金井市立はけの森美術館、釧路市立美術館で開催されました。

18回目となる今回は、小杉放菴記念日光美術館のご協力の下、国立公園絵画コレクション80点の展示が実現し、多くの方々に作品をご覧いただきました。名実ともに日本の近代洋画界を代表する画家たちが、国立公園協会からの依頼によって制作した有数の風景画コレクションです。本共同巡回展では、全国を旅して回るような感覚で作品を鑑賞してもらおうと、全国を7地域に区分して北から順番に展示をしました。実際に訪れたことのある鑑賞者が、思い出を語りながら展示室を回る様子も見られたそうです。

本事業では、展覧会の開催のみならず、企画内容に即したワークショップなどの地域交流プログラムを実施しています。今回は、日本の国立公園の風景画の展示であることから、それぞれの参加館の地元の風景を見直すプログラムが多彩に開催されました。

瀬戸市美術館では、「学芸員と巡るせとものまぢめぐり」と題して、せともの発展とともに変化してきた尾張瀬戸駅周辺の町並みを見て歩きました。普段は見ることができない、国の登録文化財・旧山繁商店の見学など、まちの

風景に思いを馳せる時間となりました。そのほか、自然をテーマにした楽曲を演奏するロビーコンサートも開催し、初めて美術館へ来たという方も多くみられました。

その他の美術館も、洋画家の指導の下、実際に国立公園内の宮島を描く宮島スケッチ会(はつかいち美術ギャラリー)や、江戸時代から続く人形一座を講師に、参加者が風景を描いて上映するワークショップ(小金井市立はけの森美術館)、描かれていた国立公園を実際に巡るバスツアー(釧路市立美術館)を行うなど、各館が工夫をこらし、地域の特徴を生かした地域交流プログラムが行われました。

本事業は、地域創造の提示した企画案を、開催各館の学芸員がアドバイザーの助言の下、学芸会議等で議論を重ねながら具体化していきます。他館の学芸員と共同巡回展づくりを通して連携を深め、ノウハウを共有することで多くの成果をもたらした事業となりました。

平成30・31年度市町村立美術館活性化事業では、「見て、感じて、遊ぼう!はなが遊園地一府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより」展を、上田市立美術館、安城市民ギャラリー、掛川市二の丸美術館、須坂版画美術館・平塚運一美術館、勝央美術文学館で開催の予定です。また平成33(2021)年度開催の本事業の参加館募集は、2019年6月頃を目処に行う予定です。地域創造ウェブサイトをご確認の上、奮ってご参加ください。



上：「宮島スケッチ会」(はつかいち美術ギャラリー)／下：「学芸員とめぐるせとものまぢめぐり」(瀬戸市美術館)

●平成29・30年度公立美術館活性化事業【市町村立美術館活性化事業】
「小杉放菴記念日光美術館所蔵 絵画で国立公園めぐりー巨匠が描いた日本の自然」

[主催]第18回共同巡回展実行委員会ほか
[特別協力]小杉放菴記念日光美術館
[会場・会期]はつかいち美術ギャラリー(広島県廿日市市):2018年4月28日~6月10日、瀬戸市美術館(愛知県瀬戸市):6月16日~7月29日、小金井市立はけの森美術館(東京都小金井市):8月4日~9月17日、釧路市立美術館(北海道釧路市):9月23日~11月11日
[助成](一財)地域創造

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4143

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

当財団顧問、コーディネーターとして長年ご指導をいただいております中村透様(作曲家・琉球大学名誉教授)におかれましては、2019年2月7日にご逝去されました。ここに深く哀悼の意を表するとともに、謹んでお悔み申し上げます。

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 研修担当
Tel. 03-5573-4093

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 佐藤
Tel. 03-5573-4185

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 米山
Tel. 03-5573-4056

●ステージラボ富士見セッション開催のお知らせ

公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。来年度前期セッションは、埼玉県富士見市にある富士見市民文化会館キラリ☆ふじみを会場に2コースを予定しています。詳細および参加者募集については、今後地域創造レターおよび当財団ウェブサイトにてお知らせします。

◎ステージラボ富士見セッション概要

[日程] 2019年6月25日(火)～28日(金)
[会場] 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
(埼玉県富士見市大字鶴馬1803-1)
[コース(予定)] ホール入門コース、自主事業コース

◎富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

2002年11月のオープン以来、富士見市民の文化・芸術を発信する中心施設です。約800席のメインホールをはじめ、可動式の座席を備えたマルチホール、音楽活動・ダンス・バレエなどの練習に適したスタジオA～D、絵画・作品などの展示室等々、あらゆる文化・芸術活動をサポートできる施設です。キラリ☆ふじみではさまざまな事業をバランスよく行い、市全体が生活文化都市として活性化することを目標として、「1. 創造・発信(つくる)」、「2. 鑑賞(みる)」、「3. 普及・育成(そだてる)」の3つを事業の柱とし、なかでも劇場のオリジナル作品を「創造・発信」して地域の文化に関する力を向上させることを重要と考え、芸術活動の充実と公益性を図るため芸術監督を置いています。これまでの芸術監督は、平田オリザ氏(劇作家・演出家/2002年～06年)、生田萬氏(劇作家・演出家/2007年～09年)、多田淳之介氏(演出家・俳優/2010年～)です。

※2019年度のステージラボは「富士見セッション」と「いわきセッション」の2回の開催を予定しています。

●ステージラボいわきセッション

[日程] 2020年2月18日(火)～21日(金)
[会場] いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市平字三崎1-6)
[コース] 3コース実施の予定

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」公開プレゼンテーション開催

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の平成30・31年度登録アーティスト8組による公開プレゼンテーションを開催します。このプレゼンテーションは、平成31年度におんかつ事業およびおんかつ発展継続事業を実施する団体向けに実施するものですが、今後、おんかつ事業の実施を検討しているホール担当者や関心のある方にも公開して行います。

プレゼンでの演奏やトークを通して、おんかつの枠組みである学校や福祉施設等でのアクティビティ(地域交流プログラム)と、ホールでのコンサートに各アーティストがどのような姿勢で臨むのかを知ることができる絶好の機会です。

観覧を希望される方は、当財団ウェブサイトの「参加フォーム」(<http://www.jafra.or.jp/>)よりお申し込みください。

おんかつ公開プレゼンテーション概要

[日程] 2019年4月23日(火) 14:30開演(予定)
[会場] Hakujuホール
(東京都渋谷区宮ヶ谷1-37-5)
[内容] 各組20分程度のプレゼンテーション
[出演] 平成30・31年度登録アーティスト 8組
岡田奏(ピアノ)
酒井有彩(ピアノ)
中野翔太(ピアノ)
田中拓也(サクソフォン)
糸賀修平(テノール)
山本奈央(オカリナ)
泉真由×松田弦(フルート、クラシックギター)
アーバンサクソフォンカルテット(サクソフォン四重奏)

●「第19回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

2月24日(日)にNHKホールで開催の「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「躍る(おどる)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能7演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日

2019年3月17日(日) 14:00～15:30
NHK Eテレ「まつりの響き ～第19回地域伝統芸能まつり」

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当

● 2019年5月号情報締切 3月1日(金)

● 2019年5月号掲載対象情報 2018年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- ◎ 公共ホール等の求人情報
- ◎ 公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

● 青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9
Tel. 0176-20-1127 金澤韻^{こだま}
<http://towadaartcenter.com/>

毛利悠子 ただし抵抗はあるものとする

国内外の多くの観客を魅了しているアーティスト・毛利悠子の世界初の美術館での個展。私たちが日常生活で目にするものを使い、目に見えないエネルギーの存在を表現する作品が特徴的。今回は渦や回転、螺旋の運動からインスピレーションを得た新しい方法論によるインスタレーションや、大規模な新作彫刻作品を公開する。美術館を飛び出し、街なかにも作品を展示。
[日程] 10月27日～2019年3月24日
[会場] 十和田市現代美術館、十和田市商店街



《墓の中に閉じ込めたのなら、せめて墓なみに静かにしてくれ for V.T.》展示風景 (2018年) 撮影: 小山田邦哉

● 岩手県北上市

北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1
Tel. 0197-61-3300 高橋裕亮
<http://www.sakurahall.jp/>

第42回北上市民劇場

『展勝地おいらん道中事始め』
42回目を迎える市民参加公演。毎年、地元ゆかりの題材で創作しており、今回は北上・展勝地で春に開催されている「おいらん道中」を取り上げる。公演に向けて脚本づくりのワークショップを開催し、参加者がアイデアを

出し合ながら取材を重ね、オリジナル脚本を創作。地元の黒沢尻歌舞伎保存協会も協力し、劇中で本格的な歌舞伎の一節も披露される。

[日程] 3月16日、17日
[会場] 北上市文化交流センター さくらホール

● 福島県白河市

白河文化交流館コミネス
〒961-0075 白河市会津町1-17
Tel. 0248-23-5300 末永・片山
<http://www.cominess.jp>

白河戊辰戦争150周年記念事業 楽劇『影向(ようこう)のボレロ』

白河が舞台となった戊辰戦争を題材とした新作楽劇。開館以来、地域ならではの舞台公演の創作に力を入れるコミネスのレジデンシャルアーティスト「コミネス混声合唱団」や、白河市で活動する演劇団体「しらかわ演劇塾」の俳優らが出演。バレエダンサーや和太鼓奏者などのプロ、市民ら多くの方が協働で白河オリジナルの舞台をつくり上げる。
[日程] 3月24日
[会場] 白河市文化会館コミネス

関東

● 茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 竹久侑
<https://www.arttowermito.or.jp/>

アーツセンターをひらく 第I期

自主企画や作品のプロデュースに注力する水戸芸術館現代美術センターのクストハレとしての特徴を踏まえて開催される企画。開催を通じて、現在の社会に求められる「アーツセンター」像を探る。会期中は国内外6名の作家が滞在制作を行うほか、ダンサー・振付家の砂連尾理と参加者による長期ワークショップ、鑑賞者も創作や対話に参加できるカフェイベントが数多く行われる。

[日程] 3月2日～5月6日
[会場] 水戸芸術館 現代美術ギャラリー

● 埼玉県川口市

川口市立アートギャラリー・アトリア
〒332-0033 川口市並木元町1-76
Tel. 048-253-0222 三井・秋田
<http://www.atlia.jp/>

絵画展...なのか?

「絵画とそうでないものの境目」から絵画について探る展覧会。「自分は画家ではない」と言いながら絵具で水面を描く人、木の彫刻に色を塗った作品を「絵画を究めた結果」として発表する人、抽象絵画の手法で社会に関わろうとする人...いずれも「絵画」というイメージとは異なる方法で作品に取り組んでいる3作家を紹介する。会期中には出品作家によるワークショップなども行う。

[日程] 3月21日～5月12日
[会場] 川口市立アートギャラリー・アトリア



原田要《絵画の庭—緑盆壺》(2017年)

● 千葉県習志野市

習志野文化ホール
〒275-0026 習志野市谷津1-16-1
Tel. 047-479-1212 田中優子
<http://narabunh.jp>

習志野文化ホール開館40周年記念 習志野フィルハーモニー管弦楽団 第94回定期演奏会 魅惑のオペラ&オペレッタの饗宴 創立50周年を迎え、90人を超える規模の市民オーケストラ・習

志野フィルハーモニー管弦楽団と、「市民とともに制作する自主文化事業」に出演するために特別編成された習志野文化ホール楽友合唱団が、プロのソリストを迎えて『トゥーランドット』や『メリー・ウィドウ』、『こうもり』から名曲の数々を披露する。市内中学校の管弦楽部や吹奏楽部から金管奏者が一部出演する。
[日程] 3月17日
[会場] 習志野文化ホール

●千葉県八千代市

八千代文化・スポーツ振興財団
〒276-0044 八千代市萱田町728
Tel. 047-483-5111 児玉信一郎
<http://www.ycp.or.jp/>

山下一史指揮 千葉交響楽団 CONCERT in 八千代

千葉県唯一のプロオーケストラ・千葉交響楽団のコンサート。同楽団芸術監督・山下一史の指揮で、千葉県在住のジャズピアニスト・外山安樹子や八千代少年少女合唱団も出演。『ボレロ』『火の鳥』『ラプソディ・イン・ブルー』などバラエティに富んだラインナップで、初めてオーケストラを聴く人やベテランリスナーも楽しめる内容となっている。
[日程] 3月10日
[会場] 八千代市市民会館

●千葉県君津市

君津市文化振興財団
〒299-1172 君津市三直622
Tel. 0439-55-3300 水原善孝
<https://www.kimibun.jp/>

きみつでおどるきみっ!!～新井英夫とみんなでおどる体奏ダンス公演～

新井英夫と共に取り組んできた「ダンス体奏シリーズ」の集大成ともいえる特別企画。2月に3回のワークショップを実施した上で、年齢(小学生以上)や障がいの有無など問わず参加者を募

り、オリジナルのダンス作品を創作。バリアフリーな交流と相互理解を育む舞台を目指す。また、公演は君津市出身の打楽器奏者・若鍋久美子による生演奏とのコラボも楽しめる。
[日程] 3月3日
[会場] 君津市民文化ホール

●東京都渋谷区

渋谷区
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21
Tel. 03-3464-3251 瀬川美保
<https://www.shibu-cul.jp/>

Live Performance SHIBUYA デューク・エリントン生誕120周年記念「エリントン DE 行こう」

今年生誕120年を迎えたアメリカを代表する20世紀最大の音楽家デューク・エリントン(1899～1974)の作品を、ピアニスト・渋谷毅の編曲で紹介するジャズコンサート。峰厚介や松風敏一、松本治ら総勢12名のトップジャズミュージシャンが出演。前日には関連イベントとして大友良英を講師に招き、エリントンについて語る講演会を開催。
[日程] 3月5日
[会場] 文化総合センター大和田

●東京都台東区

東京文化会館
〒110-8716 台東区上野公園5-45
Tel. 03-3828-2111 船川満理
<http://www.t-bunka.jp/>

くちづけ～現代音楽と能～

日本・ハンガリー国交樹立150周年を記念した現代音楽と能のコラボレーション公演。ハンガリーを代表する作曲家エトヴェシュ・ペーテルの新作『くちづけ』と、1973年発表作『Harakiri』のふたつの作品で平田オリザが演出を手がける。主演は現代音楽の融合による新たな能の世界を国内外で発表し続けるアーティストの青木涼子。日本とハンガ

リーの若手作曲家の新作世界初演や、ファッションデザイナーの江角泰俊が担当する舞台衣裳も見どころ。
[日程] 3月9日
[会場] 東京文化会館

●東京都立川市

立川市民オペラの会
〒190-0022 立川市錦町3-3-20 (立川市地域文化振興財団内)
Tel. 042-526-1312 岡崎末侑
<https://tachikawaoperaassociation.jimdo.com/>

立川市民オペラ公演2019 J.シュトラウスⅡ世作曲 喜歌劇『こうもり』(全3幕)

立川市民を中心とする「立川市民オペラの会」が企画してきたオペラ公演シリーズ。今年、喜歌劇『こうもり』を上演する。オーディションで選出された実力派ソリストと、演劇や歌の経験者から未経験者までさまざまな市民が共演。オペラの普及にも力を入れ、レクチャー&ミニコンサート、青少年向けゲネプロ見学会などの関連イベントも開催する。
[日程] 3月16日、17日
[会場] たましんRISURUホール (立川市市民会館)

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-33-1 調布市文化会館たづくり7F
Tel. 042-441-6150 白勢・立石
<https://www.chofu-culture-community.org/>

調布能楽odyssey序 キネマ能楽

市内にある深大寺と縁の深い能楽を紹介する3カ年プロジェクト。調布をモチーフにした新作能や能楽をテーマにした新進アーティストの美術展、市内各所で行う出前事業などを展開して

いく予定。幕開けとなる今回は、映画関連企業が多い「映画のまち調布」ならではの新しい演出として「キネマ能楽」と題し、能舞台の背景に映像を映し出して狂言『柿山伏』と能『鞍馬天狗』を上演。投影される映像は、能楽鑑賞の際に曲の場面を想像する一助にもなるため、初心者も楽しめる公演となっている。
[日程] 3月23日
[会場] 調布市文化会館たづくり

●横浜市

神奈川県民ホール
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
Tel. 045-633-2028 鳥越彩
<http://www.kanagawa-kenminhall.com/>

一柳慧×白井晃 神奈川芸術文化財団芸術監督プロジェクト Memory of Zero (メモリー・オブ・ゼロ)

神奈川芸術文化財団の芸術総監督の一柳慧とKAAT神奈川芸術劇場芸術監督の白井晃が共同で新しい芸術表現を追及する「芸術監督プロジェクト」の第3弾。今回はふたりが改めてコンテンポラリーダンス作品の創造に挑む。振付も務める遠藤康行や小池ミモザを中心としたダンサー陣と、板倉康明指揮・東京シンフォニエッタがコラボレーション。滅亡の街へと姿を変えた劇場空間から、ダンスの現在(いま)を問いかける。
[日程] 3月9日、10日
[会場] 神奈川県民ホール

北陸・中部

●富山県富山市

富山市民文化事業団
〒930-0858 富山市牛島町9-28
Tel. 076-445-5610 福岡・塚田
<http://www.aubade.or.jp/>

タニノクロウ×オール富山 『ダークマスター2019 TOYAMA』 庭劇団ペニノの代表作として、

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

2003年の初演から再演を重ねて根強い人気を誇る『ダークマスター』を、富山県出身で主宰のタニノクロウが物語の舞台を富山に移して脚本を書き下ろし、オール富山のキャスト・スタッフで舞台化。キャストは富山在住・出身者限定のオーディションで選ばれた。舞台上に特設されるセットも経験を問わず公募で集まった美術スタッフが製作する。

[日程] 3月7日～10日

[会場] オーバード・ホール

● 静岡市

静岡県文化財団

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5714 渡邊麻恵

<http://www.granship.or.jp/>

グランシップ伝統芸能シリーズ 人形浄瑠璃 文楽

ユネスコ無形文化遺産である日本の伝統芸能を紹介するシリーズ。今年度は「日本を知ろう!」をテーマに、三谷幸喜の『其礼成心中』などさまざまな文楽公演を実施してきたが、締めくくりとして『義経千本桜』と『新版歌祭文』を上演。人形遣いの技術や人形の仕組みを実演などを交えて解説する事前レクチャー(終了)や、太夫・三味線や実演を間近で見られる文楽入門講座、太夫の喋りをそのまま表示する字幕、出演者による開演前のあらすじ解説など、初心者も気軽に鑑賞できる工夫を凝らしている。

[日程] 3月23日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

● 静岡県島田市、川根本町

UNMANNE無人駅の芸術祭事務局(NPO法人クロスメディアはまだ)

〒427-0029 島田市日之出町

2-3

Tel. 0547-35-0018 大石歩真

<http://unmanned.jp/>

「UNMANNED」無人駅の芸術祭/大井川2019

島田市から川根本町を結ぶ大井川鉄道沿線の無人駅とその周辺の集落を舞台とする芸術祭。県内をはじめ国内外で活躍する16組のアーティストが、期間限定のレジデンス施設に滞在し、地域に息づく「記憶」「風景」「営み」を掘り起こし現代アート作品で表現。地域の魅力だけでなく課題をも顕在化させる。3年目となる今年は作品制作や運営等に関わるサポーターも募集。

[日程] 3月8日～24日

[会場] 大井川鉄道無人駅周辺



前回の展示風景 島田慎太郎<やどる>
©UNMANNED 無人駅の芸術祭

● 愛知県長久手市

長久手市文化の家

〒480-1166 長久手市野田農201

Tel. 0561-61-3411 齋藤あい

http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html

ライブパフォーマンス 偶像の魚

長久手市では、優れた芸術性や高い専門知識をもつ若手アーティストを「創造スタッフ」として委託契約。本公演は、美術系創造スタッフの小林大地の立体作品《偶像の魚》からインスピレーションを受け、舞踏家・豊永洵子と、作曲家・了徳寺佳祐のふたりの創造スタッフがダンスと音楽によるライブパフォーマンスを行う。終演後には出演者によるアフタートークを開催。

[日程] 3月3日

[会場] 長久手市文化の家

近畿

● 滋賀県草津市

草津市コミュニティ事業団

〒525-8588 草津市草津3-13-30

Tel. 077-561-2345 中谷文香

<http://www.amicahall.net/>

邦楽・邦舞の祭典

和の文化や礼儀の精神を市民に伝える取り組みとして邦楽・邦舞の公演を実施する。公募により集まった市内の小中学生が12月から箏と日本舞踊のワークショップに挑戦し、本公演で稽古の成果を披露するほか、実演家による演奏、演舞も見る事ができる。開演前には前売り券購入者を対象にした呈茶会も開かれ、和の文化に親しむことができる。

[日程] 3月3日

[会場] 草津アミカホール

● 京都市

京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏町546-2

Tel. 075-213-1000 平野・勝治

<https://www.kac.or.jp>

KAC Curatorial Research

Program vol.01

『逡巡のための風景』

関西圏外で活動する若手キュレーターを招聘し、約1年の京都でのリサーチを経てキュレーションを実践するプログラム。今回は東京都墨田区を拠点とする青木彬が、「食べる、住む、労わる」といった暮らしの中の出来事と接続した活動を行う作家(イシワタマリ、大見新村プロジェクト、八幡亜樹)を取り上げ、



イシワタマリ「いろいろやってみる部のまちな歩き」(2018) Photo by Utaco Mizuta

展覧会を行う。

[日程] 2月19日～3月31日

[会場] 京都芸術センター

● 神戸市

神戸市民文化振興財団

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14

Tel. 078-512-5500 岡村有利子

<https://www.kavc.or.jp>

ART LEAP2018

『道具とサーカス』

30～40歳代の芸術家を対象に、新たな表現の創造と挑戦の場となることを期待して公募プログラム「ART LEAP」を今年度より開催。第1回の出展作家として、空中パフォーマーのERIKA RELAXと美術家の池田精堂によるパフォーマンスユニット・tuQmo(ツクモ)を選出した。ERIKAが使う道具を池田が制作することで独自の表現を生み出す彼らが、リサーチ活動と約10カ月間の制作期間を経て、新たな道具が出来るまでの思考プロセスと、道具がもたらすパフォーマンス空間で展覧会を構成する。

[日程] 2月23日～3月17日

[会場] 神戸アートビレッジセンター

● 兵庫県伊丹市

伊丹市民オペラ公演実行委員会

〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30(伊丹アイフォニックホール内)

Tel. 072-780-2110 澤野・孫

<http://aiphonic.jp/>

第33回伊丹市民オペラ定期公演

昭和59年に活動を開始した市民オペラの定期公演。今回の演目はヴェリズモ・オペラの代表作『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』。両演目の主役を全国的に活躍するテノール歌手・藤田卓也が務めるほか、合唱団員や舞台制作の補佐役等さまざまな形で市民も参加する。ミニコンサートと演出家に

よる解説のついたプレトークも事前に開催する。

[日程] 3月24日

[会場] 東り いたみホール

●兵庫県稲美町

稲美町立文化会館コスモホール
〒675-1114 加古郡稲美町国安1286-1

Tel. 079-492-7700 江村識子

https://www.town.hyogo-inami.lg.jp/contents_detail.php?co=kak&frmlD=3788

第20回音のフェスティバル

地域で活動している演奏家に発表の場の提供などを目的に毎週第1水曜日に開催している「COCOMO夢コンサート」の出演団体による年に一度のフェスティバル。クラシック、ポップス、雅楽、合唱などさまざまな7団体が出演。単独演奏のほか、全団体がそれぞれの持ち味を生かしつつ共に演奏を行う「大合奏」が特色となっている。今回は20回目を記念して作曲家の横山潤子をゲストに迎える。

[日程] 3月10日

[会場] 稲美コスモホール

中国・四国

●鳥取県米子市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

Tel. 0857-21-8700 内田誠

<http://www.torikenmin.jp/>

プロデュース創作公演 第4弾 U-18シアタープロジェクト

『ant』『動かない電車に乗って』

特色ある地域文化の伝承・発展と新しい文化芸術の創造を目指し、演出家の宮田慶子監修の下、18歳以下の若者が書いた戯曲を、同じく18歳以下の若者が演じる。2017年3月より始動し、講師の指導を交えて約1年をかけて書き上げた新作戯曲5本が完成。その中から選ばれた2本を、オーディションで

選ばれた鳥取県在住の若者と客演を迎え、共に作品をつくり上げる。

[日程] 3月23日、24日

[会場] 米子市公会堂



U-18シアタープロジェクト 稽古の様子

●岡山市

特定非営利活動法人アートファーム

〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-5 栗山ビル402

Tel. 086-233-5175 大森誠一

<http://www.artfarm.or.jp>

岡山芸術創造劇場(仮称)プレ事業 ひと・まち・つくるプロジェクト「わが町」ものがたり

岡山市民会館・岡山市民文化ホールに代わる劇場として整備が進められている「岡山芸術創造劇場(仮称)」の2022年度の開館に向けて、岡山市とNPO法人アートファームの協働でプレ事業を実施する。講師に、角ひろみ(劇作家・演出家)、小野寺修二(演出家)、カミイケタクヤ(美術家)を招き、まちの人々に取材し地域の魅力を表現する連続ワークショップと、まちを舞台にした成果公演を通じて、劇場のある創造的なまちづくりへの機運を高める。

[日程] 3月23日、24日

[会場] まち歩きシアター



「わが町」ものがたり・聞き書きワークショップ・フィールドワークの様子(2018年9月)

●岡山県倉敷市

倉敷市文化振興財団

〒710-0052 倉敷市美和1-13-33

Tel. 086-434-0505

<https://arsk.jp/m-fes/>

第33回倉敷音楽祭

毎回特集地域を定め、日本各地で育まれた特色ある音楽文化を招聘する音楽祭。今回は「近畿」を特集し、宝塚歌劇団OGやオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラを迎える。ほかにも、倉敷市内の音楽団体による合同コンサートなど市民参加・制作による公演や町並みコンサート、伝統芸能の実演など、街なかでさまざまなイベントも開催される。

[日程] 3月8日~24日

[会場] 倉敷市芸文館、倉敷市民会館、倉敷美観地区ほか

●岡山県勝央町

美作学術文化振興財団

〒709-4316 勝田郡勝央町勝間田207-4(勝央美術文学館内)

Tel. 0868-38-0270 野村英子

<http://museum.town.shoo.lg.jp/>

gallery exhibition vol.31

稲岡篤・岡田直子・矢内早由紀 作品展

岡山県北のアーティストの支援を目的に開催されている展覧会。31回目の今回は、岡山県北ゆかりの3名の若手日本画家を紹介。同じ日本画というジャンルでありながら、それぞれ個性溢れる表現により表された作品が楽しめる。展覧会初日には、出品作家による箔を使ったおろづくりのワークショップも開催。

[日程] 2月10日~3月10日

[会場] 勝央美術文学館

●広島市

広島市現代美術館

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

Tel. 082-264-1121 松岡剛

<https://www.hiroshima-moca.jp/>

開館30周年記念特別展 「美術館の七燈」

1989年に公立館としては国内初の現代美術を専門とする美術館としてオープンした広島市現代美術館。開館30周年を記念し、活動の軌跡およびその基盤となった美術館建築を中心に紹介する。観客参加やヒロシマ、作品修復、美術館の隙間など多角的な章立てで、収集してきたコレクションを中心に展示。デザインユニット・又又の構成による30年間蓄積された資料・関連作品の紹介や、田村友一郎の新作なども展示される。

[日程] 3月9日~5月26日

[会場] 広島市現代美術館

●香川県高松市

高松市美術館

〒760-0027 高松市紺屋町10-4

Tel. 087-823-1711 毛利・牧野

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/>

やなぎみわ展 神話機械

現代美術のみならず演劇界でも忘れられないシーンを投じてきた美術家・やなぎみわの10年ぶりの個展。日本神話をモチーフに桃を撮影した新作写真シリーズを制作しており、今回日本で初紹介となる。また、本展に向けて立ち上げられた京都、高松、前橋、福島の大学等と連携した「モバイル・シアター・プロジェクト」によって、マシンによる神話世界も展覧会場に生み出される。

[日程] 2月2日~3月24日

[会場] 高松市美術館

九州・沖縄

●北九州市

北九州芸術劇場

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11(リバーウォーク北九州内)

Tel. 093-562-2655 加賀田浩二

<http://q-geki.jp/>

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

北九州芸術工業地帯 モノレール公演『アイノチス・バイ・ストッピン・プレッシング』

市民の生活の一部として親しまれている北九州モノレールの車内を舞台に、小倉～企救丘間を走りながら演劇を上演する企画。2014年から北九州高速鉄道(株)とタッグを組んで実施しており、5回目の今回は、ブルーエゴナクの穴迫信一が作・演出を手がける。車内アナウンスや通過・停車する各駅や車窓の風景までも作品の一部とし、日常と非日常が交わり合う不思議な世界を楽しむことができる。

[日程] 3月9日、10日

[会場] 北九州モノレール車内

福岡県久留米市

久留米シティプラザ
〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

Tel. 0942-36-3000 森永南海子
<http://kurumecityplaza.jp>

ふしぎなふしぎな音のコンサート

0歳以上と3歳以上対象の2つの親子向けコンサート。それぞれ定員が60人程度と少人数だが、観客をステージに上げることで演奏者との距離を近くし、前田啓太と廣川裕里による本格的な打楽器音楽を体感してもらう。公演期間に合わせて、劇場に足を運ぶことが困難な地域の高齢者施設や病院等を対象にアウトリーチも開催。

[日程] 3月16日

[会場] 久留米シティプラザ

長崎県小値賀町

おぢか国際音楽祭実行委員会
〒857-4702 北松浦郡小値賀町前方郷3874

Tel. 080-6438-7273 江川
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~takafami/takapi/ojika/ojika.html>

第18回おぢか国際音楽祭

五島列島の小値賀島・野崎島を

舞台に開催される音楽祭。今回もピアニストで東京藝術大学准教授の青柳晋氏を音楽監督に招き、ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロのマスターコースが開かれるほか、2018年6月にユネスコの世界遺産に登録された野首集落跡に佇む歴史ある教会や寺院でのコンサートが開催される。寺院コンサートにはマスタークラス受講生も出演。

[日程] 3月27日～30日

[会場] 離島開発総合センター、田野首教会、浄善寺

大分県大分市

J:COMホルトホール大分
〒870-0839 大分市金池南1-5-1

Tel. 097-576-8877 是永幹夫
<http://www.horutohall-oita.jp/>

ホルトホール大分まつり2019

ホール全館を使って映画上映会や健康講座、親子工作教室などさまざまな催しを開催するフェスティバル。メインイベントとして、大分県出身の役者とオーディションで選ばれた大分県民で構成した大分唯一の喜劇一座による「BUNGO新喜劇」を上演。このほか、地域活性化推進協議会とホールが連携し、雑貨やグルメなど100店以上が出展する「ホルト大分ファーマーズマルシェ」も開催する。

[日程] 3月16日、17日

[会場] J:COMホルトホール

宮崎県宮崎市

みやざきアートセンター
〒880-0001 宮崎市橋通西3-3-27

Tel. 0985-22-3115 松山真弓
<http://miyazaki-ac.com/>

Art Box-アートボックス#01-

アートを通じた出会いと交流、創作活動の支援を目的とした展覧会。宮崎市在住・出身者を対象に、本年度は4組のアーティスト

の個展を同時開催する。期間中は、ワークショップやパフォーマンスイベントなどの関連イベントを行い、多種多様な方法や表現によって生み出されるアート作品に、ジャンルを問わず幅広くふれてもらう機会を提供する。

[日程] 2月23日～3月17日

[会場] みやざきアートセンター

宮崎県三股町

三股町・三股町教育委員会
〒889-1901 北諸県郡三股町大字樺山3404-2

Tel. 0986-51-3462 廣池紗耶

<https://bunka.town.mimata.lg.jp/>

クラシックで時間旅行!～音楽とパントマイムで世界の国を～

宮崎県内在住・出身の演奏家で作るグループSohne(ソーネ)の演奏と、世界的パントマイミストの神山一朗によるコラボレーション公演。さまざまな国や時代を感じられる選曲とし、演奏にパントマイムの動きが加わり新しい音楽の世界が楽しめる。公演日の昼には中学生を対象とした学校鑑賞公演も行われ、パントマイムのワークショップも実施する。

[日程] 3月8日

[会場] 三股町立文化会館



グループSohne前回の公演「クラシックはドラマティック!」(2017年9月)

沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1

Tel. 098-941-8200 亀海史明

<https://okimu.jp>

伊志嶺隆と平敷兼七

沖縄をテーマにした作品にふれることができるコレクション展。常設展「沖縄美術の流れ」とともに今回紹介するのは沖縄の日本への復帰という激動の時代に20代を過ぎた写真家・伊志嶺隆(1945～93)と平敷兼七(1948～2009)。沖縄をどのように撮るべきかを模索し続けたふたりが独自の表現を見出すまでの足跡をたどり、主に1960～80年代に撮影された写真や代表的な作品群を前後期合わせて約280点展示する。

[日程] 1月12日～6月23日

[会場] 沖縄県立博物館・美術館



平敷兼七《シーラをかついでいる女の子 カツオをもってゆく男の子 与那国 1970》(1970年)

講座・シンポジウム

オペラを見る、楽しむ、制作するための「オペラセミナー」

ウィーン在住のオペラ演出家・高島勲を講師に迎え、3回に分けてテーマを設けて実施してきたセミナーの最終回。過去2回はオペラの歴史とオペラ演出について取り上げたが、今回は「オペラと明り」と題し、舞台装置、衣装と並んで舞台上の重要な要素のひとつである照明について、「明り」の歴史やその具体的手法を実際の舞台で解説を聞きながら学ぶ。

[日程] 3月13日

[会場・問い合わせ] 島根県民会館 Tel. 0852-22-5510 (小野)
<https://www.cul-shimane.jp/>

若年層の半分近くがクラシックコンサートに「興味あり」

制作基礎知識シリーズ Vol.44

若年層の文化行動③ クラシックを拡げ ていくためには

(公財)東京都歴史文化財団調査
結果より

講師 山名尚志
(株式会社文化科学研究所代表)

●公益財団法人東京都歴史文化財団「首都圏若年層の文化行動・文化意識」
【調査方法】ウェブ調査パネルを用いたインターネット調査
【調査対象】1都3県居住者の18～39歳の男女

●プレ調査(本調査の条件に則った条件のサンプルを抜き出す調査)10,000サンプル
●本調査(下記①～③の3つの条件に則ったサンプルに対する調査)3,000サンプル

①過去1年間に文化関係の何らかのイベントに参加、②都立文化施設平均に合わせてサンプル数の都内・都外比率を設定(神奈川・千葉・埼玉の比率については人口比例)、③男女年齢比率については、各都県における比率を設定

【調査日程】2017年10月10日～19日

【調査項目】

●プレ調査＝性別/年齢/居住地域/過去1年間に行った文化芸術イベント

●本調査＝《属性》同居家族/職業/普段利用している街、《生活行動》趣味/関心分野/写真撮影の状況、主な目的、《文化施設》行ったことのある施設/施設利用頻度/行かない理由/文化施設に欲しい設備やサービス/欲しい付帯施設やイベント、《文化への興味》各ジャンルへの興味度合い/先端カルチャーの内容/会場のイメージ/クラシックコンサートに行く回数/行かない理由/クラシックが好きになった理由/クラシック関連イベントへの興味/好きな時代/好きな歴史文化の楽しみ方、《情報源》文化イベントの情報源/SNSの利用状況と利用しているSNS名/閲覧している新聞・雑誌/閲覧しているウェブサイト
【分析手法】通常の単純集計、クロス集計に加え、多様な文化・趣味・消費行動から若年層の行動特性を抽出していくため、多変量解析を実施

2017年に行われた(公財)東京都歴史文化財団による首都圏の若年層(18～39歳)調査では、クラシック音楽に的を絞った設問も複数用意されている。今回は、第2段階の3,000人対象(過去1年間に何かしら文化イベントに行ったことがある層)の調査から、若年層をクラシック・コンサートに連れて行くために参考となる結果を紹介するとともに、そこから導き出される方向性を、筆者なりの解釈で示していきたい。

●結果データの紹介と解釈1

～若年層全体の半数近くが「興味あり」

1年間に何かしらの文化イベントに行っている首都圏の若年層にクラシック音楽についての興味・関心を聞いてみると、「興味がある」16.2%、「まあ興味がある」29.2%の合計45.4%が興味をもっており、潜在的な関心はかなり広くあることがわかる。では実際にクラシックコンサートに行っているかという点、「興味がある」の16.2%に限ってみても、年に1回以上行っている比率は48.5%とかなり限られている。

では、なぜ行かないのか。行かない理由の1位は、興味がある層で、「コンサートの情報が不足している」(25.9%)、まあ興味があるという層で「いっしょに行く人がいない」(26.9%)。行きたくても、気軽に行ける環境が整っていないという声が多い。この結果から考えると、

潜在的なクラシック関心層に対し、これまでにない情報提供や入り口企画などを通じて、コンサートに行く最後のハードルをなくしていくこと。これが、まずは手を付けるべき方向性ということになるだろう。

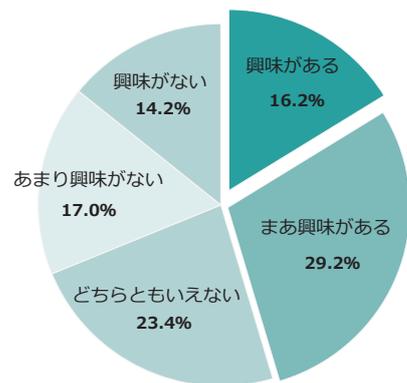
●結果データの紹介と解釈2

～クラシックは「伝統」文化

クラシックに興味がある人とならない人の差はどこにあり、それを埋めるためにはどうすればいいのだろうか。今回の結果データをみると「クラシックを好きになったきっかけ」という問いに対する回答では、1位「親も好きだった」、2位「子どもの頃に生演奏を聴いていた」といった生育環境に関係するものが最も高く、次いで「メディア接触」、最後に「友人からの接触」となっている。メディアや友人ではなく、親からの継承が基本ということは、クラシック音楽が、同時代文化というより歌舞伎などと同じ伝統文化に近いものとなっていることを示している。2018年は明治維新150周年の年に当たるが、明治期に入ってきたクラシックも、150年を経て、母国欧州だけでなく、日本においても伝統文化のひとつとして定着した、ということになるのか。

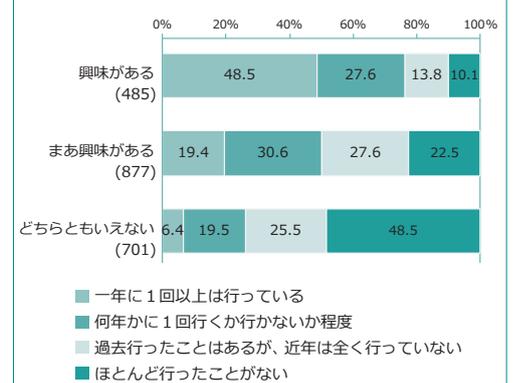
これを踏まえるなら、クラシックの関心層を増やす手立てとしては、まずは親や祖父母のクラシック好きからの家庭内継承をサポートすること、あるいは地域単位で「クラシックを継承する」伝統をつくり育てることが有効という

クラシックへの関心度合い(n=3,000)



提供：(公財)東京都歴史文化財団

興味別別 クラシック・コンサート来訪頻度



提供：(公財)東京都歴史文化財団

ことになる。他の伝統文化と同様、継承のための仕組みづくりが重要なのである。

●結果データの紹介と解釈3 ～クラシックの楽器と楽曲は異なる

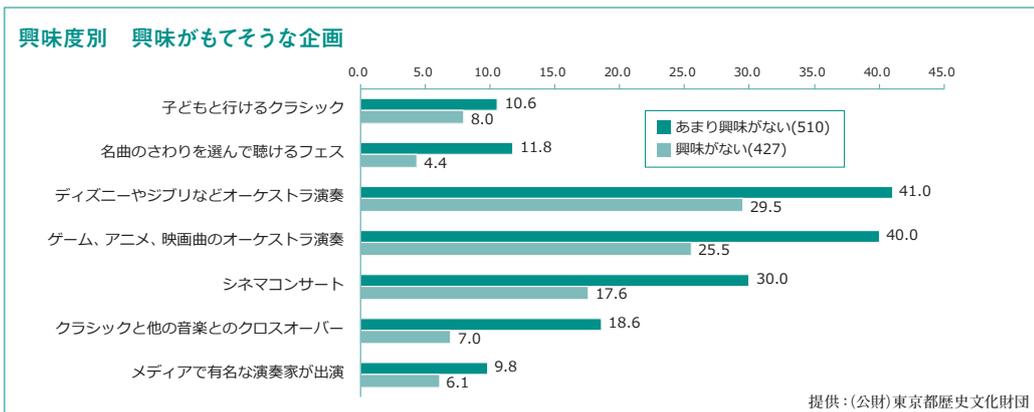
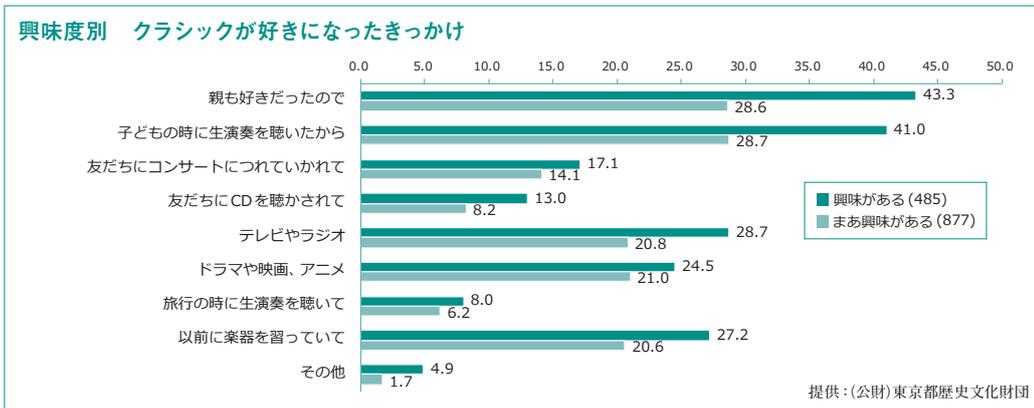
伝統文化としての継承は、時間がかかるし、物心が付いた後の年齢では手遅れとなる可能性もある。では、いま関心がない、薄い人をすぐにクラシックに惹きつけることができる手段はないだろうか。これについては、クラシックに興味がない・薄い人を対象とした「興味を持ってそうな企画」についての質問の結果データが参考になる。

データを見ると、1位が「ディズニーやジブリのオーケストラ演奏」、僅差で2位「ゲーム・アニメ・映画曲のオーケストラ演奏」、3位が映画の画面と一緒にオーケストラが演奏する「シネマ・コンサート」となり、クラシックの楽曲を使わない企画に人気が集まった。逆に、クラシックの楽曲を企画のメインとした「名曲のさわりを選

んで聴けるフェスティバル」や「子どもと行けるクラシック」などの順位は低い。

この結果を元に解釈する限り、クラシックに関心がない人は、クラシックの“楽曲”に関心がないだけで、オーケストラの演奏など、クラシックの“楽器”による演奏への抵抗があるわけではないと考えられる。実際、クラシックの楽曲ではないオーケストラ公演は、近年大きな成功を収めており、市場が拡大している。

では、楽器の演奏を好きになったら、楽曲も好きになるのだろうか。この結果データを見ただけではそこまでの検討は難しいが、クラシックが伝統文化となっているらしいことを考えると、クラシック以外の楽曲のオーケストラ演奏に感動したからといって、それがすぐにクラシック好きに繋がっていくとは言い切れないのではないか。クラシックの普及と、クラシック楽器演奏の普及は、筆者の見解としては、分けて考えておいたほうがよさそうだ。



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

福島県猪苗代町

はじまりの美術館 第2回福島県障がい者芸術作品展

「きになる⇄ひょうげん2018」



「きになる⇄ひょうげん2018」展示風景

● 第2回福島県障がい者芸術作品展

「きになる⇄ひょうげん2018」

[会期] 2019年2月2日～3月10日

[主催] 福島県

[審査員] 日比野克彦(美術家・東京藝術大学美術学部長)、川延安直(福島県立博物館 学芸課長)、岡部兼芳(社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館館長)

*1 郡山市を拠点にした精神科領域を専門とする病院「あさかホスピタル」を核とした社会医療法人あさかホスピタルグループの一法人。1967年に社会福祉法人安積愛育園を設立して知的障害児施設を開設したのははじめ、複数の支援施設を設置・運営。また、障がいのある人の音楽活動を支援するHANA、スペシャルオリンピックス日本・福島の事務局も務める。

*2 日本財団が行っているインクルーシブな社会を目指す「障害者と芸術文化」領域への支援の総称。アール・ブリュット支援事業として地域で親しまれてきた建造物のリフォーム資金を提供して施設整備を支援し、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(滋賀県)、薬工ミュージアム(高知県)、鞆の津ミュージアム(広島県)、みずのき美術館(京都府)、はじまりの美術館(福島県)を整備。なお、はじまりの美術館は、東日本大震災の復興支援チャリティオークション「New Day-Artist for Japan」基金からの支援を受けている。

*3 「さがす・であう はじまりアーカイブス unico file」
<https://hajimari-archives.com/>

2014年、福島県猪苗代町に、障がいのある人の表現を紹介する小さな美術館「はじまりの美術館」が誕生した。この施設は、築140年の奥行き30メートルある蔵をコンバージョンしたもので、社会福祉法人安積愛育園^(*1)が設置・運営。猪苗代スキー場から車で15分の雪に閉ざされたこの小さな美術館で2月2日、第2回福島県障がい者芸術作品展「きになる⇄ひょうげん2018」が開幕した。

同展は、福島県出身・在住の障がいのある人等を対象に、“あなたが/わたしが「きになる」表現”をテーマに公募したもの。228組から350作品の応募があり、多種多様な作品の多くが館内にぎっしりと展示されていた。審査基準も「きになる」で、審査員の日比野克彦さんは書道の長い巻紙を初めて目にした驚きを書いた『おどろき』をピックアップ。福島県知事賞の本田正さん『森のバター』(緑色の絵と黄色いペイントのある筒3本の組み合わせでアボカドを表現)、きになる⇄ひょうげん賞の折川知佳さん『無題』(大量のキャラクターが描かれたノート。ゴミ箱からスタッフや家族が集めて出品)など。どの作品も「きになる」ポイント満載で見飽きない。取材に訪れた展覧会初日には、新潟・福島・山形3県の障がいのある人の表現に関わる実践者によるトークイベントも開催された。

● はじまりの美術館は、日本財団が2010年から実施してきたアール・ブリュット支援事業(現在は日本財団DIVERSITY IN THE ARTSに発展^{*2})によって整備された展示施設。安積愛育園では、設立当初から障がいのある人の創作活動を支援。09年には生活を活気づけ、社会との繋がりとなるこうした活動を本格的に支援しようと、プロジェクト「unico(イタリア語で唯一の意)」を立ち上げ。そうした取り組みの延長としてはじまりの美術館を開設した。

福祉施設の元支援員で館長を務める岡部兼芳さんは、「この美術館の目的は、誰もが安心して暮らせるまちづくりです。開館前から、地域連携の仕組みづくりを行い、自主企画展では障がいのあるなしに関係なく作品を展示しています。

面白いと思った作品がたまたま障がいのある人がつくったものだった、そんな出会いをしてほしい。そして、その面白さを普段の生活の中に持ち帰っていただければと思っています」と語る。

美術館と地域の人々が一緒にまちづくりを話し合う“寄り合い”を開館前から行い、今も続けている。美術館では地域のイベントも行われているし、自主企画展でもみんなで楽しむ工夫が行われている。例えば、『あなたが感じていること、わたしが感じていることは、ちがうかもしれない』展(2017年)では、目で見る鑑賞の後、手で触ってみる鑑賞をするという工夫でさまざまな感じ方があることを地域の人々と一緒に体験したという。

unicoの活動の中で特記すべきことのひとつが作品のデジタルアーカイブス「unico file」^(*3)だ。つくり手と表現を切り離さず、作家の日常、制作風景も紹介。学芸員の大政愛さんは、「現在、700点程度の作品を掲載しています。作品だけでなく、日々の様子を知らせることができるのは私たち自身が福祉施設を運営していて、創作の現場に近いから。はじまりの美術館を訪れるようにアーカイブを見て、色々な人や作品と出会ってもらえればと思います」と話していた。

この美術館で福島県障がい者芸術作品展を実施することになった経緯について、福島県障がい福祉課主幹兼副課長の鈴木恵さんと言う。「障がい者の芸術文化活動推進知事連盟の趣旨に賛同し、本県も加盟していたことから、県としても障がい者芸術作品展を実施することにしました。実施にあたっては、障がい者の芸術活動についての専門的な知識が必要であり、そこで委託先としたのがはじまりの美術館です。4月には『障がいのある人もない人も共に暮らしやすい福島県づくり条例』を施行します。県民一人ひとりが、障がいや障がいのある人への理解を深めていただくよう取り組みを進めることが県の役割になります。芸術はそのためにとっても有効だと考えています」。

障がいのある人とその表現活動を地域や社会と繋げる挑戦が小さな美術館で始まっている。(アートジャーナリスト・山下里加)